

# 生活科学研究科・生活科学部の一年 (2003・1・1～2003・12・31)

## I. 生活科学研究科・生活科学部の教育

### ◆平成14年度生活科学研究科前期博士課程の修了状況

平成14年度の前期博士課程の修了者は総計56名であった。(表1)

表1 平成14年度 前期博士課程修了状況

	前期博士課程
食・健康科学コース	15
居住環境学コース	14
総合福祉科学コース	5
臨床心理学コース	8
長寿社会食生活学コース	5
居住福祉工学コース	5
長寿社会福祉科学コース	4
合 計	56

なお、前期博士課程学生の修了後の進路については以下の通りである。

#### <食・健康科学コース>

進学2名(本研究科1名, 本研究科外1名), 教員3名, 公務員2名, 病院1名, 企業5名, 自営業1名, 未定1名

#### <居住環境学コース>

進学1名(本研究科外1名), 教員2名, 公務員1名, 企業7名, 自営業1名, 未定2名

#### <総合福祉科学コース>

進学1名(本研究科内1名), 教員1名, 公務員1名, 企業1名, 無職1名

#### <臨床心理コース>

進学1名(本研究科内1名), 教員2名, 病院等4名, 不明1名

#### <長寿社会食生活学コース>

公務員1名, 教員1名, 企業3名

#### <居住福祉学コース>

進学1名(本研究科内1名), 公務員1名, 企業1名, その他1名(本研究科研究生1名), 無職1名

#### <長寿社会福祉学コース>

進学2名(本研究科内2名), 教員1名, 公務員1名

◆平成15年学位取得状況

平成15年（2003・1・1～12・31）に博士の学位を取得した者は3名で、以下の通りである。（表2）

表2 平成15年度博士学位取得状況

氏名	主査	副査	種類	論文タイトル
	中谷延二	山口 英昌 曾根 良昭	課程	香辛植物の精油およびオレオレジンの上気道細菌に対する抗菌活性成分の解明
	白澤政和	坂口 正之 畠中 宗一	論文	転換期の福祉国家における社会福祉運営に関する研究 －英国行政改革をめぐる福祉政策の展開－
	畠中宗一	岩堂美智子 山縣 文治	論文	「父親」の不在をめぐる実証的研究－家族構成員のウエルビーイングとの関連において

◆平成14年度生活科学部の卒業状況

平成14年度の生活科学部卒業生数は、総計129名であった。（表3）

表3 平成14年度 生活科学部卒業生数

食品栄養学科	31
居住環境学科	49
人間福祉学科	49
合計	129

学部卒業生の進路状況は以下の通りである。

<食品栄養科学科>

進学6名（本研究科3名，本研究科外3名），公務員13名，財団等2名，企業10名

<生活環境学科>

進学9名（本研究科7名，本研究科外2名），公務員1名，企業30名，留学1名，自営業1名，未定2名

<人間福祉学科>

進学8名（本研究科5名，本研究科外3名），公務員（教員含む）14名，社会福祉施設・団体等9名，企業9名，留学1名，無職2名，未定6名（大学院進学準備4名）

◆平成15年度生活科学研究科入学状況

平成15年度の大学院入学については前期博士課程は8月入試と2月入試（再募集）を行い、後期博士課程は2月入試を行った。入学者は、前期博士課程が定員48名に対して50名であり、その内で留学生は4名であった。一方、後期博士課程は定員が21名に対して11名であり、その内で留学生は4名であった。

◆平成15年度生活科学部の入学状況

平成15年度の学部入学については、前期日程、後期日程、推薦入試を行った。前期日程では合格者数が100名で、競争率は食品栄養科学科が5.1倍、居住環境学科が3.7倍、人間福祉学科が2.6倍であった。後期日程では合格者数は23名で、競争率は食品栄養科学科が13.7倍、居住環境学科が11.5倍、人間福祉学科が6.9倍であった。推薦入試では7名が合格した。なお、留学生は8名の志願者があったが、1名が合格した。その結果、合計で定員116名に対して、留学生1名を含めた130名（1名辞退）が入学した。（表5）

表5 平成15年度 生活科学部 志願者・入学者数

学 部	前期日程				後期日程				推薦入試				留学生				合 計			
	定数	志願者数	合格者数	入学者数	定数	志願者数	合格者数	入学者数	定数	志願者数	合格者数	入学者数	定数	志願者数	合格者数	入学者数	定数	志願者数	合格者数	入学者数
食品栄養学科	23	128	25	25	5	82	6	6	2	16	2	2		0	0	0	30	226	33	33
居住環境学科	34	134	36	35	6	92	8	8	3	7	3	3		5	0	0	43	233	47	46
人間福祉学科	35	102	39	39	6	62	9	9	2	11	2	2		3	1	1	43	175	51	51
合 計	92	364	100	99	17	236	23	23	7	34	7	7		8	1	1	116	634	131	130

◆高校生向けオープンキャンパス

生活科学部は8月1日に平成15年度オープンキャンパスを実施し、学科説明会以外に、食品栄養科学科は学科相談会と施設見学会、居住環境学科はミニ講義と施設見学会、人間福祉学科はコース別説明会と学科展示会を開催した。学科説明会に参加した高校生等は、食品栄養科学科が340名、居住環境学科が360名、人間福祉学科が280名で、総計980名であった。また、父母等も総計120名の参加があった。(表6)

表6 平成15年度オープンキャンパス参加者数

<食品栄養学科>

	項目	時間帯	高校生等	父母 (教諭等含む)	計
午前の部	学科相談会	10:00～11:00	300	30	330
	学部説明会	11:00～12:00	340	40	380

午後の部	施設見学会	13:00～	250	20	270
------	-------	--------	-----	----	-----

<居住環境学科>

	項目	時間帯	高校生等	父母 (教諭等含む)	計
午前の部	学部相談会	10:00～11:00	360	50	410
	ミニ講義	11:00～12:00	300	30	330

午後の部	施設見学会	13:00～	260	30	290
------	-------	--------	-----	----	-----

<人間福祉学科>

	項目	時間帯	高校生等	父母 (教諭等含む)	計
午前の部	学科展示会	10:00～	150	10	160

午後の部	学科相談会	13:30～14:40	280	30	310
	コース別説明会	14:40～16:00	280	30	310
	学科展示会	14:30～	120	10	130

<生活科学部>

総計	学科説明会		980	120	1100
	施設見学会※		1380	130	1510

※重複あり

## Ⅱ. 生活科学研究科・生活科学部の研究

### ◆平成15年度文部科学省21世紀COEプログラム

生活科学研究科を主専攻として「21世紀の都市像に関する国際的研究拠点」(拠点リーダー加茂利男法学研究科教授)を「学際・複合・新領域」に申請したが、採択されなかった。

### ◆市立大学内の競争的資金の採択による研究実施状況

市立大学内の積算公費の10%を保留して、平成15年度から重点研究、都市問題研究(旧プロジェクト研究)、新産業創生研究が進められることになった。なお、都市問題研究は平成14年度からプロジェクト研究という名称で始まっている。本研究科については、以下の研究が採択され、研究を進めている。

#### <重点研究>

平成15年度採択(5年間)研究代表:西成勝好「高齢社会における食品のおいしさ、食べやすさの解明と健康科学に関する研究拠点の形成ー食品多糖類の食物・生理活性研究とその人間栄養学への応用ー」(研究費:平成15年度33,000千円)

#### <新産業創生研究>

平成15年度採択研究代表:宮野道雄  
「地震時の家屋倒壊・家具転倒による身体的損傷度測定用人体ダミー開発」(研究費:平成15年度3,000千円)

#### <都市問題研究>

平成14年度採択(5年間)研究代表:宮野道雄「虚弱高齢者に対する健康教育政策と生活支援のあり方に関する総合的研究ー大阪市を中心にー」(研究費:平成15年度5,100千円 累計11,860千円)

平成15年度採択(5年間)研究代表:中井孝章「大都市圏における子どもの生活問題と生活改善のあり方に関する総合的研究」(研究費:平成15年度4,680千円 累計4,680千円)

平成15年度の学内での重点研究の総額は120,000千円であるが、その内の33,000千円を本研究科に配分されたことになり、新産業創生研究は総額41,000千円で、本研究科の採択総額は3,000千円である。都市問題研究は総額40,520千円であるが、本研究科は2件が採択され、総計で9,780千円が配分されたこととなる。

◆平成15年度文部科学省科学研究費補助金交付状況（研究代表者分のみ）

平成15年度の文部科学省科学研究費補助金について、生活科学研究科では研究代表者分のみで継続を含め25件が採択され、今年度の配分額は100,620千円となった。その内訳は、基盤研究（A）が4件、基盤研究（B）が5件、基盤研究（C）が9件、萌芽研究が2件、若手研究（B）が3件、特別研究員奨励金が2件である。（表7）

表7 平成15年度科学研究補助金採択状況

研究種目	研究代表者	配分額（千円）	研究課題
		平成15年度	
基盤（A）	中谷延二	5,720	沖縄の食生活における老化抑制因子の解明
基盤（A）	西成勝好	14,300	新規テスクチャーモディファイヤー創出のための多糖類ゲルの体系的研究
基盤（A）	宮野道雄	16,640	高齢者の自立を目指す地域生活システム構築への生活科学研究－環境適応能に着目して－
基盤（A）	曾根良昭	18,460	人の消化管活動の日内及び年間変動についての比較研究－大都市と地方都市－
基盤（B）	白澤政和	5,700	ソーシャルワークにおけるアセスメントと援助計画に関する理論的・実践的研究
基盤（B）	北浦かほる	2,100	深夜保育所の保育環境整備に関する研究－保育内容から見た空間の機能分析による保育環境のあり方－
基盤（B）	佐藤昌子	3,100	高齢者の自立生活支援を目的とする視・聴・触覚感性情報の有効活用に関する研究
基盤（B）	富樫 穎	4,100	大都市に居住する虚弱高齢者の健康維持方策と生活支援のあり方に関する総合的研究
基盤（B）	中井孝章	7,000	大都市圏に暮らす子どもの生活問題と生活改善のあり方に関する総合的研究
基盤（C）	小伊藤 亜希子	1,300	子どもの家庭生活の実態からみる男女共同参画社会における子育て支援の課題
基盤（C）	畠中宗一	500	子どものウェルビーイングを規定する諸要因に関する社会学的研究
基盤（C）	湯浅 勲	800	お茶はなぜガン細胞の細胞死を特異的にひきおこすのか－細胞内シグナル伝達に及ぼす影響－
基盤（C）	西川 禎一	800	サラダ野菜等の非加熱食品の腸管出血性大腸菌汚染に対する制御方法の検討
基盤（C）	森 一彦	1,500	情報（視覚・聴覚）障害者の探索行動からみた情報保障環境に関する研究
基盤（C）	要田洋江	600	ジェンダーの視点から見た障害者の自立と親の自立に関する社会学的研究
基盤（C）	山本由喜子	2,700	ネギ属野菜類の高血圧・動脈硬化症に対する防御効果と加熱調理の影響
基盤（C）	谷 直樹	2,400	歴史系博物館における建築史関係の展示及び活動に関する調査研究
基盤（C）	菊崎泰枝	2,200	オールスパイスの抗酸化特性とその活性発現因子の解明
萌芽研究	上田博之	1,100	バリアフリーからバリアコントロールへ－生活文化を考慮した高齢者住宅のあり方の研究－
萌芽研究	曾根良昭	2,800	音楽聴取は人の消化管活動に影響するか？
若手研究(B)	清水由香	1,400	精神障害者当事者参加型の地域保健福祉システムのあり方に関する研究
若手研究(B)	中嶋節子	1,100	近代の住宅地形成における造園産業の役割について
若手研究(B)	荻布智恵	2,000	ヒトの消化管活動及び代謝調節機構に影響する食事・環境要因と発現機序の解明
特別研究員奨励金	西成勝好	1,200	コンニャクグルコマンナン新規誘導体および他の多糖類との混合系のレオロジー挙動
特別研究員奨励金	高橋 亮	1,100	新規水溶性多糖の有効利用に関する研究
合計		100,620	

◆平成15年外部競争研究資金の採択による研究状況

平成15年に外部の競争研究資金が採択されての研究状況は16件であり、その内で、平成15年度に新たに開始された研究は11件であり、本年配分された研究資金の総額は29,435千円であり、以下のような研究を行った。(表8)

表8 平成15年外部競争研究費採択状況

研究代表者	研究テーマ	資金提供団体・機関	研究期間	平成15年度 配分研究費 (累計額)
佐伯 茂	カフェインによる生体防御機構に関する研究	(財) 全日本コーヒー協会	2002・4～ 2003・3	0 (2,000,000)
上田 博之	住宅改修におけるケアマネージャーの役割と住宅改修方法の研究—デンマーク、ドイツ、オランダ、スウェーデンの調査研究—	(財) 長寿科学振興財団	2002・4～ 2003・3	0 (3,845,460)
上田 博之	バリアフリーからバリアコントロールへ—高齢者住宅の住宅改善における段階的バリアフリー化の必要性とその整備方法の研究—	(財) 大阪ガスグループ福祉財団	2003・4～ 2003・3	0 (550,000)
白澤 政和	障害者ケアマネジメントの総合的推進に関する研究	厚生労働省厚生科学研究費補助金	2000・4～ 2003・3	0 (16,000,000)
白澤 政和	ケアマネジメント・システムに対する総合評価に関する研究	厚生労働省厚生科学研究費補助金	2000・4～ 2003・3	0 (9,000,000)
宮野 道雄 (サブテーマ代表者)	大規模破壊実験における人体被災計測手法の開発	文部科学省科学技術振興調整費	2001・4～ 2003・3	6,835,000 (23,079,400)
西成 勝好	学術研究助成(各種物質添加による澱粉の食感制御)	(財) 飯島記念食品科学振興財団	2003・4～ 2004・3	4,450,000 (4,450,000)
佐伯 茂	食品タンパク質のカルシウム代謝機能に基づく骨粗鬆症制御の探求	(財) 大阪ガスグループ福祉財団	2003・4～ 2004・3	600,000 (600,000)
佐伯 茂	核内レセプターを介する大豆タンパク質の血清脂質低下作用	(財) タカノ農芸化学研究助成財団	2003・4～ 2004・3	1,000,000 (1,000,000)
佐伯 茂	新規の卵黄前駆体レセプター類似タンパク質のクローニングと機能解析	(財) 旗影会	2003・4～ 2004・3	750,000 (750,000)
佐伯 茂	日本型食生活の栄養学的考察：植物性タンパク質による粗鬆症抑制の探求	(財) 飯島記念食品科学振興財団	2003・4～ 2004・3	1,900,000 (1,900,000)
荻布 智恵	老年期大赦異常予防のための多価不飽和脂肪酸摂取効果を伝達する新規調節機能の探索	(財) 日本科学協会	2003・4～ 2004・2	500,000 (500,000)
荻布 智恵	新規糖尿病制御分子の探索	(財) 上原記念生命科学財団	2003・4～ 2004・3	2,000,000 (2,000,000)
藤田 忍	集合住宅リノベーションの研究	(財) 住宅総合研究財団	2003・7～ 2004・6	1,800,000 (1,800,000)
坂口 正之	障害者プラン、それに基づく行政サービス等の評価指標に関する研究	厚生労働省厚生科学研究費補助金	2003・4～ 2006・3	3,800,000 (3,800,000)
白澤 政和	ケアマネジメントの評価研究—利用者とのコストの両面から	(財) 三菱財団	2003・5～ 2005・5	3,800,000 (3,800,000)
島中 宗一	子どもの発達と家族への支援方策に関する研究	厚生労働省厚生科学研究費補助金	2003・4～ 2004・3	2,000,000 (2,000,000)

◆学部内研究科長裁量経費による研究

研究科長裁量経費の一部を、「生活科学研究助成」として研究科教員に重点的に配分することが、研究科長から提案され、平成14年11月の研究科教授会で了承された。これは「生活科学分野での研究を推進する」ことを目的とした研究助成制度として平成14年度からスタートした。審査は研究科長と評議員2名から構成する選考委員会が担当した。選考の評価基準とした項目は、1) 生活科学研究としての先駆性、2) 社会的な効果、3) 研究科への貢献度、4) その他(国際性や未開拓分野への挑戦、研究グループの広がり)である。

平成14年度には7件の応募が寄せられ、5件が採択された。総額3,670千円がこの研究助成に当てられた。(表9)  
 なお、平成15年9月末には、助成金を受けた研究プロジェクトの成果報告会が開かれた。

表9 平成14年度生活科学研究助成の採択プロジェクト

研究課題	研究代表者	共同研究者	配分決定額 (円)
ネギ属野菜類の高血圧および動脈硬化症に対する抑制効果と生体防御能への影響	山本由喜子	西川 禎一 菊崎 泰枝	960,000
現代食生活に起因する生活習慣病の遺伝子疾患動物を用いた解析	佐伯 茂	金 東浩 荻布 智恵 曾根 良昭 新平 鎮博	660,000
住宅困窮世帯の把握方法と支援方策に関する研究	檜谷美恵子	多治見左近 小伊藤亜希子	600,000
鉄筋コンクリート構造物における建築仕上部材の維持保全技術に関わる基礎的実験研究	渡部 嗣道	宮野 道雄 藤田 忍 土井 正	1,000,000
中国の年金制度の展開と現状に関する調査研究	坂口 正之	所 道彦	450,000

平成15年度の生活科学研究補助金の交付については、4件の応募があり、3件が採択された。総額2,750千円がこの研究助成に当てられた。(表10)

表10 平成15年度生活科学研究助成の採択プロジェクト

研究課題	研究代表者	共同研究者	配分決定額 (円)
食品成分による肝疾患の予防効果の解明	小島 明子	小西洋太郎 湯浅 勲	1,000,000
セラミックタイル仕上構法の接着問題における界面破壊力学の適用性に関する基礎的研究	渡部 嗣道	宮野 道雄 永村 一雄	1,000,000
中国の年金制度の現状と課題に関する調査研究	所 道彦	坂口 正之	750,000

◆研究に関わる受賞状況

岩間伸之：「日本社会福祉実践理論学会学術奨励賞」(2003・6)

受賞対象：岩間伸之著『ソーシャルワークにおける媒介実践論研究』(中央法規出版，2000年発行)

Lim, H., Okada, S., Shirasawa, M, et al : poster award of the 6 th Asian/Oceania Regional Congress of Gerontology (2003.11)

受賞対象：The Daily Life Satisfaction for Old One-Person Residents in An Metropolitan City of Japan, Book of Abstracts of 7 th Asian/Oceania Regional Congress of Gerontology, Tokyo, Japan, s173 (2003)



### Ⅲ 生活科学研究科・生活科学部の社会的貢献

#### ◆大阪市立大学文化交流センターの講座

生活科学研究科・生活科学部担当『今、「生活」支援を考える』

清水由香：9月4日「当事者の力を活かす地域生活支援」

岩間伸之：9月11日「住民参加の地域ネットワーク活動」

木村佳代：9月18日「病院との付き合い方、かかり方」

松島恭子：9月25日「親子のこころの結びつきとその危機」

センター企画講座『テレビーデジタル地上波放送開始記念ー』

中井孝章：12月15日「テレビと子どもの発達問題」

#### ◆生活科学研究科の学外ゼミナール

谷 直樹：大阪市立大学大学院居住環境学ゼミナール「住まいの歴史～古代編」

場 所：大阪市立住まい情報センター

10月12日「弥生時代の住まいを復元する」75名

10月26日「四天王寺と法隆寺」71名

11月9日「歴史的建築物の調査法」74名

11月30日「四天王寺周辺の歴史的建造物」68名

主 催：大阪市立大学生活科学研究科・大阪市立住まい情報センター

白澤政和：自立生活支援を考えるゼミナール（事例研究会）

場 所：大阪市社会福祉研修・情報センター

参加者数：28名

開催日時：8月21日，9月5日，10月3日，10月24日，11月7日，11月21日，12月5日，12月19日

主 催：大阪市立大学大学院生活科学研究科 共催：大阪市社会福祉研修・情報センター

#### ◆児童・家族相談所での相談状況

平成14年度の面接件数は172件，延べ面接回数は4,436回である。相談内容としては，乳幼児の発達と不登校，学校不適応に関するものが多い。独居高齢者を対象としたグループ活動も支援した。